



ウガンダのムベンデ県にてレモングラスの栽培拡大と環境教育による環境保全事業

活動3.7 ブリケット炭生産のための固形廃棄物の回収

日時と場所

日時	場所
1月～現在	ルサリラ (SORAK エッセンシャルオイル生産スペース) キバリング準郡 (ブリケット炭生産地の準群)

導入

農家や家庭から出る固形廃棄物は、SORAK でブリケット炭を生産する際の材料となる。SORAK は、キバリング準郡で廃棄物を回収する活動を続けている。

トレーニング/活動の目的

本活動の目的は、ブリケット炭生産に欠かせない炭になる材料を安定的に入手する事である。ブリケット炭の使用を普及する事で、従来の木材燃料（薪と木炭）の使用を削減できる。木材燃料が使用されなくなれば森林伐採が減り、森林減少を食い止める事ができる。農業を主な生業とするコミュニティにとって、良い気候の中で農作物を育てる事が欠かせない条件であるが、このように環境保護活動を行う事によって安定した気候を維持できるようになる。また、従来はゴミとして捨てられていた家庭ごみが、有機廃棄物となりブリケット炭の材料として使われるので、価値のあるものとなる。

ファシリテーター

本活動は、固形廃棄物回収スタッフが主導となって実施した。（SORAK が借りているトラックのドライバー、また SORAK のブリケット炭生産場所に廃棄物を運搬するスタッフは不定期で雇われている）このチームは SORAK メンバーであるマトブ・バジリオとマファビ・マーティンによって監督した。

活動

1. 20 戸の農家に SORAK へ固形廃棄物を提供するよう承諾を得る。プロジェクトに参加する農家は、アクセスの良い道があり、トウモロコシのゴミを提供できる事を確認して、選定した。
2. SORAK の廃棄物回収スタッフは、村から 60 トンの固形廃棄物を回収した。2018 年の 7 月と 8 月で、10 戸の農家から 30 トンの固形廃棄物を入手した。（月に 15 トン）また 2019 年の 1 月に、新たに 30 トンを 10 戸の農家から回収した。合計して 20 戸の農家から 60 トンのか廃棄物を回収する事ができた。
3. 回収スタッフは、SORAK のブリケット炭生産場へ廃棄物を搬入した。



回収したトウモロコシの廃棄物は焼却して炭となり、ブリケット炭生産の材料となる。



追加で回収した廃棄物。



乾燥機の日よけを組み立てる。



日よけシートを設置。



有機廃棄物から炭をつくる。



混合物から炭を取り出す。



ブリケット炭



若者と女性の研修生がブリケット炭の生産機械について学んでいる。

成果

十分な固形廃棄物を回収し、継続的にブリケット炭が生産できるように保管された。

主な課題

1. コミュニティの中には、SORAK に固形廃棄物を提供する事を嫌がり、焼却して無駄にしてしまう住民もいた。彼らは、廃棄物は売却できる価値のあるものだと考えており、その考えは正しいが、現段階では SORAK としては回収と運搬のみに予算を割り当てているため廃棄物の購入は行っていない。
2. 今後、毎年の収穫時期にトウモロコシや他穀物の回収を続けていく事が課題として挙げられる。また、ブリケット炭の販売によって利益を得て、回収・運搬にかかる費用をカバーし、本活動を持続可能なものにしていく事も考えなければならない。

提案

1. 主に収穫時期に廃棄物の回収を行うこと。すべての農家からトウモロコシ、豆、ピーナッツから固形廃棄物が出る時期である。
2. ブリケット炭生産の過程で炭を束ねる材料として使うために、近隣のコミュニティからキャッサバの廃棄物を購入する事を提案。（1トンの木炭のために、月間 600,000 ウガンダシリング分（約 18,000 円）のキャッサバ粉が使われる）

結論

ブリケット炭生産の工程の中でも、廃棄物の回収は重要な活動である。十分に計画して、的確に実行していかなければならない。将来的には、毎日廃棄物を回収できるように SORAK 所有のトラックが必要となる。また、この回収活動は、地域開発センター（我々の事務所があるルサリラ地区のような小さな田舎の町）からの廃棄物回収の一部とする事もできる。廃棄物を回収する事で、ゴミの無いきれいなコミュニティとなり、衛生状況を改善する事にも繋がる。